

令和8年度第1回舞鶴市文化振興審議会会議録（要約）

日 時：令和8年5月19日（火）13：30～15：15

場 所：舞鶴市総合文化会館 2階 会議室

出 席：（委員）中川委員長、直田副委員長、伊藤委員、上杉委員、浦岡委員、
金子委員、田中委員、戸川委員、安野委員

（事務局）鴨田市長、小島部長、森次長、横川課長、坪内主幹、佐藤係長、森下

欠 席：立道委員

傍聴人：0人

会議内容：

- 1 市長開会挨拶
- 2 舞鶴市文化振興審議会委嘱状交付
- 3 文化振興審議会委員長の選出および職務代理者の指名
- 4 諮問 ○「音楽を通して子ども達に生きる力を育むまちづくり協定」の延長について
- 5 議題 ○諮問事項について
○令和8年度事業について
- 6 その他

議事内容：

5 議題

○諮問事項について

（委員からの主な意見）

【団体の優位性・活動実績への評価と今後の要望】

- 多様な背景を持つ子どもたちの受け皿（インクルーシブの視点）になっており、地域への波及効果や子どもたちの居場所・繋がりを継続して確保する意義は大きい。
- 今後も協定を継続・延長していくにあたっては、「なぜこの団体なのか」を示すモデル事業となり得る優位性や特異性、実証データを次回の報告書等に明示してもらう必要がある。
- 単に楽しむだけでなく、より地域へ還元できる活動や多世代交流を強化し、他団体との差別化を図るべきである。
- 運営ノウハウを持つ外部団体（エル・システムジャパン）との関係性やノウハウの継承状況について、報告書の内容からだけでは見えにくいため、より明確な説明を求めたい。また、市の補助金に頼るだけでなく、国の支援制度（文化庁など）への申請も視野に入れるべきである。

【財政支援のあり方・公平性と説明責任】

- 過度な公費依存からの脱却を目指し、段階的な自立を促していくべきである。また、民間財団からの資金獲得など、自立に向けた資金源の開拓をサポートする視点も必要である。
- 一般団体向けの助成制度を整えたり、まとまった金額の補助金交付については公開審査に諮るなど、エントリー形式の平等な仕組みづくりを検討すべきである。
- 2学期から本格始動する「まいかつ」の中での費用負担の考え方や、他団体とのバランスについて注視する必要がある。

【中長期的な計画の必要性】

- 3～5年後を見据えた中長期的なビジョンや将来的な見通しを明確に示してもらった上で、今後の協定のブラッシュアップや継続の判断をしていくべきである。

○令和8年度事業について

(委員からの主な意見)

【重点的に取り組む項目：(5)アートマネジメント・コーディネート人材の育成】

- 毎回の審議会で議論になる重要なテーマであり、今年度は具体的な進展を期待したい。
- あまり難しく捉えず、まずは地域における「文化のお世話役」という位置づけで進めてはどうか。

【事業No.40「第44回舞鶴市障害者文化作品展」】

- 例年開催されているが、今後は特定の福祉センター関係者だけでなく、より幅広い市民が関わり、参加できる行事へと発展させていきたい。

【事業No.44「まいづるまちなかアートアラウンド」】

- 実施内容や方法について、アートマネージャー等の専門的な意見をより取り入れて実施すべきである。
- 面白くて良い事業である。

(事務局答弁)

- 本事業は懇話会の意見を反映した事業であり、展示作品の選定やデザイン等は京都府の地域アートマネージャーの監修を受けている。

【事業No.45「ロクディム公演」】

- 子どもたちが本物の文化に触れる機会は非常に重要である。一方で、学校現場では、新たにプログラムを組み込む時間の確保が難しくなっている。学校教育と文化活動をいかに繋げていくかが今後の課題である。

【文化事業企画懇話会を経て立案された事業（No.43・44・45）】

- 事業の推進にあたっては、懇話会委員との連携をより緊密にして進めるべきである。

○その他のご意見

- 舞鶴市文化振興基本計画の中間にあたる年度であるため、現状の課題を今後の事業に活かすべく、次期計画の検討を始めるべき時期である。
- 様々な年代や分野（教育・福祉など）の幅広い視点を持つ委員が審議会に参画することは、多様な視点から文化振興を議論する上で大変有意義である。
- 学校現場や幼児教育の場においても、子どもたちが地域で「本物」に出会う機会を創出していきたい。